



じゃばらの隙間から・・・

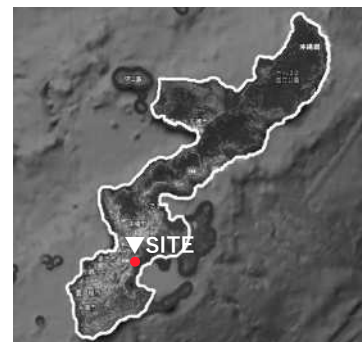
建物・自然・人が一体となるよう交互に配置し、壁をパラパラに計画し遊具で全力で遊んだ子供やそれを見守る親達が一息つける居場所の提案。



それぞれの領域を壁で分断するのではなく、「はらばら」の壁とすることで視線や人の気配を両側から感じ取れる計画とした。

01. 歴史が見守る公園

今回計画する建物は沖縄本島の中城にある公園の一角である、「自然共生エリア」内にトイレを計画する。また敷地の南側にはかつての王が居住した「グスク」があり歴史を感じ取れる場所となっている。



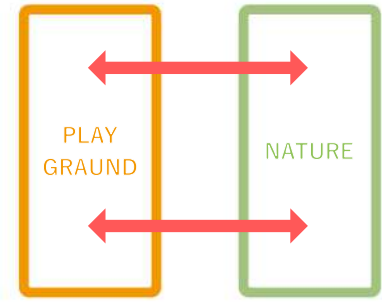
02. 計画場所の問題点

計画敷地に隣接する形で子どもたちが遊ぶことができるトランポリンの遊具が併設しているが、休憩する場所・トイレ等がここよりも約200m余り離れているため親御さんが子供を見守るためには距離があるたありまた、周囲は伐開され開けているため木陰となるような場所がないため専用のトイレを計画する。



□俯瞰でトイレと周辺を見る。

03. ダイアグラム



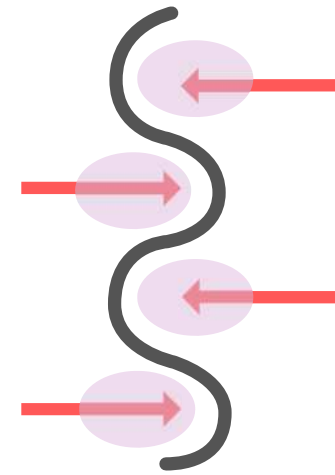
1.ゾーニング

計画敷地を取り囲むようにパブリックな遊び場と木々溢れる自然が層状に重なる場所となっている。



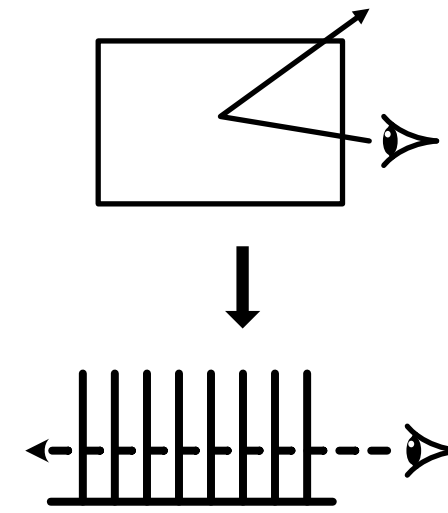
2.ミックス

3つのゾーンを直線状に配置し、トイレのあるプブに向かうにつれ混じり合うような計画とする。



3.溜まりを作る

自然と遊び場を隔てる壁を凹凸に仕上げ時間により変化する「休憩スペース」を創り出す。



4.ばらばら

様々な休憩場所で休んでいても子どもたちを見守れるよう隔てる壁はスリット状にし視線が抜ける計画



5.ランドスケープの一部

周辺環境や地面から立ち上がる様な形態とすることで周辺の環境に馴染み圧迫感のない建物となる。

04. 断面パース

